

1

2021
vol.71

リハビリテーション科は、リハビリテーション医師、理学療法士15名、作業療法士5名、言語聴覚士4名リハビリ助手4名の24名のスタッフが所属しており、脳血管リハビリテーション、運動器リハビリテーション、呼吸器リハビリテーション、がんリハビリテーションを実施しております。

各セラピストの紹介をしていきます。

理学療法士は、
基本的な動作能力の回復
を図る事が理学療法の1
つの目的になります。



作業療法士は、
入浴や食事等が日常生活
動作、手工業の作業活動
を通して身体、心のリハ
ビリテーションを行って
いきます。



シリーズ
第15回
ワコメディカル
ワンポイントアドバイス
～リハビリテーション室～

リハビリテーション室紹介

言語聴覚士は
言語障害、嚥下障害に関
して検査、評価を行って
いきます。



当院は救急医療を担う急性期病院の中でのリハビリテーション科でもあり、入院後早期からADL評価、嚥下評価、高次脳機能評価、言語評価を行っております。

場所は、新棟の2階で実施しております。月曜日から土曜日の8時30分から17時まで実施しております。



次回はリハビリテーション科の活動や業務内容を紹介していきます。

文責:比嘉 孝夫

第2回

各部署の紹介

4階東病棟

ってなに？



中部病院スタッフの皆～全集中の呼吸、
感染対策でCOVID-19に立ち向かおう～
エイエイオー！



4階東病棟は呼吸器内科の混合病棟です。

人工呼吸器装着患者、慢性呼吸器疾患の高齢な患者が多く、人工呼吸器管理と呼吸状態の変化や全身状態の細かな症状観察が必要とされます。

時には認知機能が低下した患者の対応で大変な場合もありますが、笑顔を絶やさず「患者様が安心して療養でき、1日でも早く回復できるよう」誠意のある看護の提供に心がけています。

また、2020-2021年選ばれたBestDoctorsに選ばれた喜舎場先生を中心に、医師と看護スタッフのチームワークがよく働きやすい職場です。皆様どうぞよろしくお願いします。

沖縄県立中部病院へのお問合せ

〒904-2293 沖縄県うるま市宮里281
TEL: **098-973-4111**(代)

FAX:[代表]

098-973-2703

[地域連携室]
098-982-6568

沖縄県立中部病院



ホームページ <https://chubuweb.hosp.pref.okinawa.jp/>



新年あけましておめでとうございます。

昨年4月に新型コロナウイルスの第1波が押し寄せて以来今まで、当院はそれとの戦いの中に置かれています。

新年を無事に迎えることができ、まず頭に浮かぶのは、地域の皆様と職員の皆さんへの感謝の気持ちです。地域の皆様からたくさんのご支援と励ましの言葉をいただき、こうして職員皆が元気で新年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

そして幾つもの困難な状況を乗り越えてきた職員の皆さんの元気なお顔を今年も見ることができることが何よりの幸せであり、一緒に喜び合いたいと思います。

新年を迎へ、ここで以下の決意を新たにしたいと思います。

我々は受診される全ての患者さんを必ず助ける気持ちで診療にあたります。新型コロナだけでなく、どんな重症の患者さんであっても受け入れ、当院の総力を挙げて治療します。

どうか地域の皆様、懸命に治療・ケアにあたる医療スタッフ達を温かい目で見守っていて下さい。流行の波が繰り返し押し寄せ、いつ収まるのか知れず、まるで出口の見えない暗闇の中を歩いているような気持でいる彼等を皆様の優しい光でそっと照らしてあげて下さい。

今年も中部病院は皆様と共にコロナ対策に取り組むだけでなく、全ての患者さんを受け入れ治療にあたることに全力を尽くします。どうか宜しくお願ひいたします。

沖縄県立中部病院 院長 玉城 和光

オンライン対談企画：後編

コロナ感染症：青木眞×高山義浩

コメディカルワンポイントアドバイス～リハビリテーション室～

各部署の紹介－4階東病棟ってなに？－

表紙

令和三年新春の管理者一同

コロナ感染症

青木 真浩

2020年初めに発生したCOVID-19(新型コロナ感染症)は全世界を席巻し、いまだに決定的な治療法が見つからないまま流行を繰り返しています。中部病院は沖縄県の感染対策の基幹の1つとして患者さんの受け入れを行い、また感染対策に関する情報をさまざまな形で発信してきました。

この半年のウイルスとの戦いについて、中部病院の臨床研修の修了生で、全国の感染症診療の相談役として活躍している青木真浩医師と、国や沖縄県の感染対策を詳しい当院感染症内科の高山義浩医師のオンライン対談を実施しました。



本対談の注釈つきバージョンを上記QRコードから読むことができます。

本稿は2020年9月16日にオンラインで行われた対談の後半です。

お二人からコロナについて市民に伝えたいことは何ですか?

高山: 沖縄県内の集団感染は、主として飲食店、病院、高齢者施設で発生しています。飲食店といつても、半数以上がキヤバカラやホストクラブなどで、あるいはスナックやバーが続きます。特に「接待を伴う」というのがポイントです。

これらに共通する特徴は、マスクをつけられない人たちがいる、そして過密な場所という点です。

基本的に、「まだ」の流行は全然終わつたわけではなく、おそらく1年2年は軽く続くし、もしかしたら数年にわたる可能性もあります。

その中で、検査体制とか医療体制とか、技術論のところがいまがちですが、やっぱり住民の皆さんに心がけてほしいのは、人が集まる場所に行く時にマスクを着用するとか、公共物を触れた後には手洗いをきちんとすると、こうした感染症対策の基本中の基本を「コロナでもきちんとやつていただきたい」とことです。

そして、換気が結構大事らしいということを分かってきていて、人が集まる場所はいつも風通しを良くておきましょう、といふことです。1時間に1回窓を開けて風を通す、というよりは、ちょっとよさとしそうだしそうで、選択肢を自分達に出してくれよ、自分達で勝手に思いつきの」と言わないから、というようなコミュニケーションが専門家と政治家の間でも、必要だと思います。ただ、県職員として弁護する気ではないんですけども、沖縄県は比較的うまくいってる県だ、というふうに思つてあります。

青木: 战略的に「ここ」の部分は政治家が「ここ」の部分は専門家が「ここ」の部分はリス「ミ」のプロがやる」といった棲み分けを予め整理しておくことが大事ですね。

高山: 新型コロナの対策でいろんな専門家が議論を交わし、特にP.C.Rのことなどで意見が割れて、とてもいいことだなと私は思っています。

その道の専門家がメディアを介さずに、FacebookとかTwitterなどのSNSで生の専門議論を市民がかいつまんで読みながら、「あーでもない」とコメントを入れながら議論をします。ただそれが単にSNS上の劇場型の議論に止まらず、政治決断のところでも同様に議論されて、最終的には政治家がきちっと判断をすこといどろまで持つていければ、この「コロナ」で私たち専門家の使いこなしのものを学んだりすることになるんじゃないかなと思っています。

青木: 僕は感染症を微生物の領域、臨床の領域、それと公衆衛生・疫学の領域に分けます。「この3領域のバランスを整えることが大事。

日本はこれが先進国の中でダントツにアンバランスで、圧倒的に公衆衛生や疫学の人の数が足りない

染予防がなかなかできないお子さんなどは、高齢者にウイルスをうつしてしまったリスクが高いから、流行期にはお孫さんが高齢者に会いに行くのは控えたいみたいです。

これが基本の上で、先ほどのお話をもう少しだけするとすると、たとえば「夜の街」など、この感染症が流行してしまう場所がどんな所を私たちは冷静に見る必要がある、そこの人達がどうして感染してしまうのか。そこに社会的支援が必要なならばちゃんとやつていい、ということは、今後呼びかけて行きたいと思っています。

青木: 僕は、ちょうどH.I.V.が見つかった1984年にアメリカに渡り臨床を始め、そこからH.I.V.との付き合いが始まりました。80~90年代にして問題つて極めて類似している。

どちらも新しいウイルス感染症で、治療法もワクチンもない。最初は新しい感染症というのでみんな漠然とした恐怖感がある。そこで、特に日本で見られた、たとえばH.I.V.にかかった人は悪い人悪いことをした人あるいは特殊なセクシャリティを持ついる人。自業自得でかかる病気…といった、感染者に対する蔑視とか過剰なまでの恐怖感みたいなものを抱いている人がすごく多かったです。その後鳥インフルエンザ、エボラ、今回のコロナと同様の問題が繰り返されている。

患者さんは患者さんでコロナにかかると迫害される。休業失業に追い込まれる。そしたら今度P.C.R.陽性でも黙つとうとか、味覚障害だけでも一般的な反応の仕方が特に公衆衛生面から非科学的かつ非常に同化圧的、村八分的文化が強いなつて感じます。

マスクしてないと白い目で見られたり、咳をするいななのを抱いている人がすごく多かったです。周囲が非常に冷たいんだよね。

患者さんは患者さんでコロナにかかると迫害される。休業失業に追い込まれる。そしたら今度P.C.R.陽性でも黙つとうとか、味覚障害だけでも検査陽性だったら社会に行かないから受診するのは院だからと退院患者を老健施設で受けて貢えなくなる「コロナを診てる医療機関とか医療従事者に対する周囲が非常に冷たいんだよね。

患者さんは患者さんでコロナにかかると迫害される。休業